

五嶋 穂波 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

朝に咲いたばかりの花のようでもあり、底に青い水を湛えたカルデラのようでもあり、不思議な風景の見える器です。凛とした器の形と、指先から生み出される繊細な線の表現も魅力的です。

これからも、見る者の想像力を柔らかに刺激し、豊かな時間を与えてくれる作品を創り続けて下さい。心から応援しています。

皆藤 将 [皆藤 将賞]

五嶋 穂波 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

美術作品を買おうと歩いている気がついたら器を買っていました。こういう出会いが3331アートフェアの魅力の一つだと思います。大切に使いしていきたいと思っています。

株式会社丹青ディスプレイ [丹青ディスプレイ賞]

甲斐 千香子 (Gallery TK2)

縁起の良いまねねこにひかれました。

岩関 禎子 [岩関禎子賞]

村田 言恵 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

溶けはじめたソフトクリームもしくはシェービングフォームなアイシング陶芸？幻想の世界の迦陵頻のような存在に護られたフラワーボットでハーブを育てたいと思います。

蓑輪 孝治 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

エナジーカラーで「あどけない」「土」そのもの、おうちにおいたらどうなるかわワクワクです。ひとまずやってみます。

近藤 俊太郎 [アバンギャルド茶会賞]

今西 泰起

ガン研究で博士号まで取得しているという異色の経歴を持つ陶芸家。研究生活で培った「細胞」への「探求心」が立体作品に思う存分に詰め込まれたユニークな作品でした！

今井 恵 (ボヘミアンズ・ギルド)

複製するためのシルクスクリーンではなく、絵画を作るための技法としてシルクスクリーンを使う。小さい画面の中に凝縮された表現は何度見てもどこから見ても飽きることがない魅力を感じました。

高井 勇輝 [高井勇輝賞]

表 良樹 (KANA KAWANISHI GALLERY)

乱気流を意味する〈Turbulence〉の名の通り、ガラス鏡に大量の異なる塗料を吹き付け、時間とともに色同士が混ざりあうことで、大気の動きのように意図を超えた複雑な模様を生み出した作品。暖色の〈#4〉は昼を、寒色の〈#5〉は夜をそれぞれ表している。

自然の生み出す造形や色彩、その人智を超えた壮大さや繊細さに感じる神性は最も根源的な感動のひとつであり、それを自らの手により解釈し新たな形として再構成しようとする試みもまた、アートの根源的な衝動のひとつだと言える。そんな普遍的で時流に左右されないコンセプトの純度の高さに惹かれた。

コロナ禍で閉じこもらざるを得ない日々や家の中で、神器でもある鏡をメディアムにし、色彩ある光でポジティブなエネルギーを感じられそうなところもいい。

佐藤 京 [佐藤京賞]

伴野 崇 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

ファーストとは思えない高い技術力と素材を選択する眼、力を備えている。今後の成長が楽しみな作家だと思う。

佐藤 幸恵 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

出土品の欠片から作家のイメージーションを膨らませ、悠久の時を超えて過去と現在が結びつき、何処か懐かしいような、そして未来へと繋がっていくような不思議な感覚を持つ作品である。金属との融合の作品もあり、今後の新たな展開を期待したい。

望月 美鶴 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

非常に繊細な作品だが、集合体の形にきつと次なる展開が望めると思う。今後の展開を楽しみにしている。

佐野 吉彦 [春告鳥賞]

早崎 真奈美

自然なるものと、人のまなざしとのあざやかな出会い。

藤崎 了一 (KANA KAWANISHI GALLERY)

自らの意のとおりになるもの、ならないもの。その絶妙なバランス。

笹川 直子 [SASANA O賞]

藤幡 正樹 (NFTとアートのこれから「符号理論 / Coding Theory」)

三沢 恵子 [アートエバンジェリスト協会賞]

富井 弥樹 (秋田公立美術大学)

きらめく作品群。ガラスと土が混ざり合うことで生まれた「新しい素材」は、洗練されていないながら、どこか素朴な表情で、まるで息をしているようにも感じられました。透明感溢れる作品の中で、アーティストの実験の出発点となる、赤土を使ったミルフィーユのような作品は、小さいながらもエネルギーを持ち、相反するものの融合の瞬間を想起させます。これからまた、どんな魅力的な表情の作品が生み出されるのか、心待ちにしています。

山本 謙一 [アウラ賞]

早川 祐太

今回は現代建築的な造形と表現的にシンクロする立体アートを選出してみました。プライマリーな立体の組合わせに、直感的な立体操作と石膏の様な柔らかい白い液体の塗布をアレンジした表現バランス感覚に、作家の優れた詩的感性を感じ取る作品です。

施井 泰平 [泰平賞]

中ザワヒデキ (NFTとアートのこれから「符号理論 / Coding Theory」)

藤本 由紀夫 (NFTとアートのこれから「符号理論 / Coding Theory」)

藤幡 正樹 (NFTとアートのこれから「符号理論 / Coding Theory」)

寺内 俊博 [Shibuya Style Prize]

yuna (五美術大学交流展)

古川 みさき (五美術大学交流展)

五嶋 穂波 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)